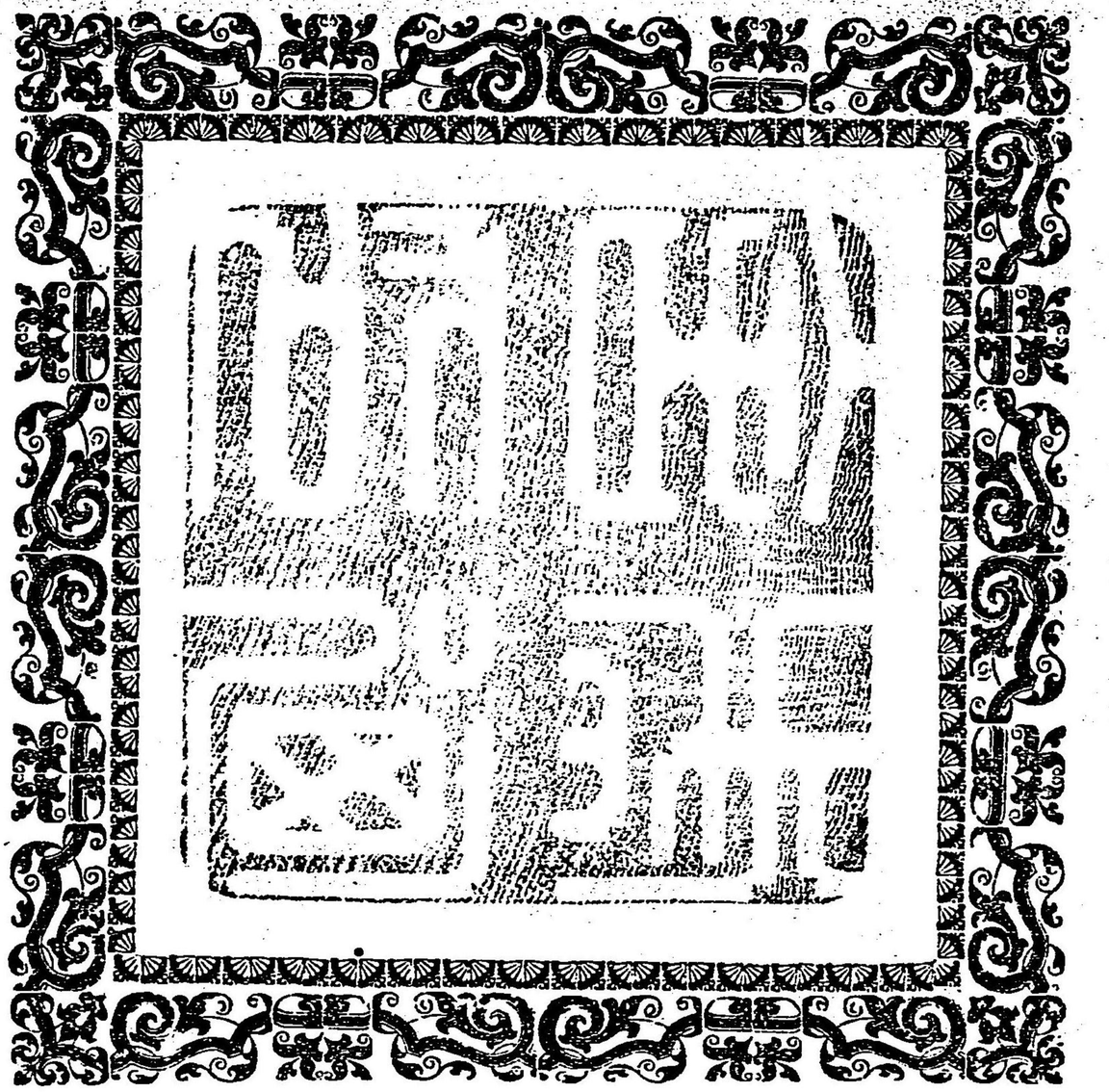
北垣弼編輯

字學提要

全三冊

虎道舍藏版



明治二十年二月七日内務省交付

府縣鄕村社祭典式序

皇大御國の政を。神事を先とし他事を後とし給ふぞ。祭政はありける。つら〳〵考ふるに。天の高くして地は厚くして廣しと雖ども。吾大八洲豐葦原の瑞穗國なるあたある國の中にも。神の本源國として。萬の國尊き國なり。其最初の。破取廬鳴に基き。破取廬鳴を天の瓊矛に成れる。是を吾國威の起り來ること實に遠し。國の萬の國の東方に位しける。故に外國よりも日東と云ひ。神乃國たるが故に大日本と云ひ。又皇國とも云ひしが。吾國の風儀とするを。神祇を尊ミ重じ給ふを以て。御

國の法と定め給ひける。掛幕も綾ゑ畏き。神代の昔。天照大御神高天原ゑ事始給ひて宣給しく。我皇御孫命ゑ。豐葦原乃水穗國を安國と。平けく所知食と言依ゑ給ひて。皇孫彦火瓊々杵命ゑ。三種の神器と。八十伴緒の神を副て。天之磐座放ち。天之八重雲を伊豆の千別ゑ千別て。天降し給ひゑ。時ゑ筑紫の日向の高千穗の槵觸が峯ゑ天降り給てより。神日本磐余彦命に至まて。宮柱太敷立高天原ゑ比木高知て。天之御蔭日之御蔭と隱鎭坐して。安國と平けく所知食ゑ給ひけるそかと。其神日本磐余彦命より以來。今ゑ至まて。皇統連綿ゑて。日月と共ゑ變らせ給ふことなく。いと長くいと久しく。寶祚の御隆。天壤と共ゑ窮りなかるべし。其皇御孫命ゑと。則神を祭り給ふ事を授給ひしが。其神を祭給ふ大元は。天照大御神の御倉板擧神を祭給ひ。まゑ豐受大神をも祭給ふゑ起り。天の岩窟の前の俳優ゑ基き。神日本磐余彦命の。天津神籬を起し給て。上小野の榛原下小野乃榛原ゑ。靈時を建て。皇祖天神をいつきまつり給ふを始として。御間城入彦五十瓊殖命は。あまゑ神祭を始給ひける。因て御歷代の天皇ゑ。是を以て。政の大元となし給ふ。故ゑ禁祕御抄ゑ。凡禁中作法。先神事。後他事。且暮敬神之叡慮。無懈怠と出ゑり。夫祭祀の旨たるや。天下の治要。國

家の大道。不刊の大典なりて。是全く。顯幽二界を治め。國の爲め。民の爲め。災を攘ひ。福を祈り。以て吾國体を保護り給ふ法なり。爰を以て。明治維新の際に當り。中古より廢せたる。神祇官を起き。古典の頽廢たる者を振興き。以て吾皇國の。社格を定め。幣帛官國の別あり。社に府縣郷村の格を別ちて。祭祀を定め給ふ。然るに。幣帛の奠。籩豆の享。一定の法式なかるべからず。爰に於て。官國の社には。式部頭より。神社祭式の定則を立給ふ。然りと雖ども。府縣郷村社に至ては。區々にして。其要する典式なき。世に古き。令義解。集解。三代格。延喜式。儀式。神官儀式帳。北山抄。江家次第。等の如き典則ありと雖ども。その祭祀の季節。幣帛の品物。神官の賜物。官人の進退。等の類にて。社壇の法式。典供の居置などの事は漏さずして。只其大略を著されるのみ。そして又近世に。心ある人等に著されたる。祭典畧。神事畧。私祭要集。などの類は。事こまやかに記錄されたれども。かなしきかな。舊習に泥みて。社々の差等。典供の式なく。行ひがたき。ふし多くして。今更に便利よき書少し。故に已が如き田舍の祝たちよ。いとたど〳〵しくて。大津之邊に居る。大船を舳解き放ち。艫解き放ちて。大海の原に押放つ事の如くにおもむ。爰に已を劣なく拙かれとも。此程思ひ考へて。式部寮の布告に基き。さ

て。神社祭式を。習ひもして。祭式摘要。祭典作法。其餘諸の書等より。爰よりらむと。思ふふしのミ。是方彼方により出し。聊抄錄ありて。府縣郷村社祭典式と号け。其祭毎に。畧註を書加へ祭式及神饌の差等を立て。諍辭を祝詞式の文格を習ひ。簡易便利を考へ書綴りて。恒例祭を上巻とし。臨時祭を中巻とし。須知作法を下巻として。已が爲め人の爲めと。思ひ議りて編れど。其發つ矢の。目的を中をりや。あたらざるやは。知ざるとも。聊已が思ふ所を著ありて。祭祀乃常備とする事をかんありける。凡て神事を仕奉るとさえ社坦の進退。拜揖の所作。典供の居置を至まて。眞心を仕へ奉らざ

ば。神祇の感應を。かなそぬ者から。平常こゝろがけ。まめやかをあて。いそしミ仕へ奉るべきをこそ。たゞか思ひ考へ物しつる時ハ。明治十餘七年と云ける年の。ゐと初の月乃末つかたを。田道間の國竹田の里を。はゝ表米大神を仕奉る。北垣弼が。謹み敬ひ畏みもあるす

府縣鄉村社祭典式目次

上卷

恒例祭之部
祈年祭
新嘗祭
例祭
四方拜
元始祭
後月輪東山陵 孝明天皇 遙拜
紀元節

神殿祭遙拜
皇靈祭遙拜
畝傍山東北山陵 神武天皇遙拜
風神祭
大祓
道饗祭
鎭火祭
神嘗祭遙拜
天長節

中卷

臨時祭之部
山神祭
地鎭祭
新殿祭
宮門祭
假殿遷座
本殿遷座
祈雨祭
祈晴祭
報賽祭

雷霆祭
地震祭
疫神祭
除蝗祭
漁獵祭
同報賽祭
出船祭
同報賽祭
宅神祭
醫業祖神祭

竈神祭
井神祭
祖靈祭

下卷

須知之部

神部之條
齋戒之條
神殿裝飾之條 附新國祭 宮門祭
神饌物之條
幣之條 附木綿

神輿之條
奏樂之條
獻馬之條
路上祭場之條
遙拜所之條
疫神祠之條
鮑川菜之條
大祓祓座之條
鎭物之條
還座用具之條

神床裝飾之條
靈神祭之條（附井神祭）

作法之部

笏之條
脅揖之條
起居之條
拜之條
揖之條
拍手之條
祭場進退之條
膝行膝退之條

龜居之條

祓除式

大麻行事之條

攪湯行事之條

殿階昇降之條

開閉扉之條

平伏之條

稱唯之條 附警蹕

神饌奉撤之條

神饌器持方之條

奉幣式之條

祝詞奏上式之條

玉串獻る條

直會式之條

府縣郷村社祭典式目次畢

府縣郷村社祭典式卷之上

田道間　北垣弼謹編

例祭之部

とあるゝ是なり。其始ゝ。凡踐祚大嘗祭ヲ爲大祀。式ノ時祭ヲ爲中祀。大忌。風神。鎮花。三枝。相嘗。新嘗。加茂。等ノ祭ヲ爲小祀。

嘗。鎮魂。鎮火。道饗。園。韓神。松尾。平野。春日。大原野。等ノ祭ヲ爲小祀。

とあり。そゝ御世々々ゝ從ひ。同異ありと雖とゝ。此祭ゝ年毎に。月日の定期ゝありて祭給ふ。故に四時祭ゝ即恒例祭なることと詳なり○此祭ゝ府縣郷村社ゝ於ては。まつ一年一

度の例祭を爲大祀。祈年。新嘗祭。を爲中祀。元始。風神。道饗。鎭火。等乃祭を爲小祀。て祭てよかるべし

祈年祭

神社祭式ゟ。本月四日太政官廳ゟ於て。伊勢神宮。宮中。皇靈。等の幣帛を使ゟ班ちて發遣せゐむ。次て各地方の官幣社。國幣社へ幣帛を班つ。各地到着の後ち。日を擇て祭祀すべし。但古例を存する社ゐ。其日ゟ因るべし。令義解に。仲春祈年祭。謂祈獻禱也。欲令歲災不作時令順度。即於神祇官祭之。故曰祈年。とあり此祭の權興ゐ。祝詞考ゟ。此祭ゐ崇神天皇の御代ゟ始をりとすべ

しと云れたり。四時祭式ゟ。祈年祭神。三千一百三十二座。大四百九十二座。註ゟ三百四座は。案上官幣とあるゐ謂ゆる官幣の大社ゟて。一百八十八座は。國司所祭とあるハ國幣の大社也。次ゟ小二千六百四十座。註ゟ四百三十三座ハ。案下官幣とあり。是は官幣の小社ゟて。二千二百七座ゐ。國司所祭とあるは。則國幣の小社かれば。なり。中ゟゐ宮中の八座。大宮女神。伊勢兩宮。高御魂神。御歲神。山口神。水分神等ハ。別ゟ御心を用給ひて祭給ゐるよし。そハ同祭式の條ゟ。三后。皇太子。御巫祭神。各八座。並奠幣案上。中略太神宮。度會宮。各加馬一疋。

御歳社。加白馬。白猪。白鶏。各一。高御魂神。大宮女神。及甘樫。飛鳥。石村。忍坂。長谷。吉野。巨勢。賀茂。當麻。大坂。贈駒。都祁。養布。等。山口。並吉野。宇陀。葛木。竹鶏。等。水分。十九社。各加馬一疋。云々とありしが。其宮中の社ゐ。御巫祭神八座。並大。月次。新嘗。中宮。東宮。御巫。点同 神産日神。高御産日神。玉積産日神。生産日神。足産日神。大宮賣神。御食津神。事代主神。その大宮賣神は。造酒司坐神六座の中ゐ。四座ありて 並大。月次。新嘗 とある是なり。又次の五神ゐ。大和國。添上郡。宇奈太理座。高御魂神社。大。月次。相嘗。新嘗 伊勢國。度會郡。大神宮三座。相殿。坐神二座。並大。預月次。新嘗。等祭 同郡。度會宮四座。相殿。坐神三座。並大。月次。新嘗 大和國。葛上郡。葛木御

歳神社。名神。大。月次。新嘗 同國。高市郡。甘樫坐神社四座 並大。月次。相嘗。新嘗 とあり。また山口乃神社ゐ。大和國。添上郡。夜支布山口神社。大。月次。新嘗 同國。平群郡。伊古麻山口神社。同上 同國。葛上郡。巨勢山口神社。同上 同郡。鴨山口神社。同上 同國。葛下郡。當麻山口神社。同上 同郡。大坂山口神社。同上 同國。吉野郡。吉野山口神社。同上 同國。山邊郡。都祁山口神社。同上 同國。城上郡。長谷山口坐神社。同上 同郡。忍坂山口坐神社。同上 同國。高市郡。飛鳥山口坐神社。同上 同郡。訛火山口坐神社。同上 同國。十市郡。石村山口坐神社。同上 同郡。耳成山口坐神社。同上 まる水分神社ゐ。同國。葛上郡。葛木水分神社。名神。大。月次。新嘗 同國。吉野郡。吉野

水分神社。大月次。新嘗　同國。宇陀郡。宇太水分神社。同上　同國。山邊郡。都祁水分神社。同上　と神名式に見へたりしが。御歳神に白馬。白猪。白鷄。を献ずる權輿にて。除蝗祭の條に。古語拾遺の引たるを見よ。ゆゑた山口。水分等の神社を。格別に祭給ふことにて。大和國にては。天皇に田畑あるが故に御縣神社六座あり。此國も固より水の少き國故ならん歟。さてその班幣の式は。四時祭式に。前祭十五日。充忌部八人。木工一人。令造供神調度。中略致齋之日。平明。奠幣物於齋院。案上並案下所司預整案下幣帛掃部寮。設座於內外神祇官人率御巫等入自中門就西廳。座東面北上。大臣以下。入自北門就北廳座大臣南面。參議以上就廳東座西面。王大夫就廳西座東面御巫就廳下座群官入自南門就南廳。座北面東上。神部引祝部等入立於西廳之南庭既而神祇官人降就廳前座大臣以下及諸司共降就廳前座中臣進就座宣祝詞。每一段畢祝部稱唯。宣訖。中臣退出。大臣以下。諸司拍手兩段。不稱唯。然後皆還本座。伯命云。奉班幣帛。史稱唯。忌部二人進狹案立。史以次唱御巫及社祝。各稱唯進。忌部。頒幣帛。畢大神宮幣帛者。位別。案上差使進之史還座中頒幣訖。諸司退出。つぎに國司の式にて。國司長官以下准例。散齋三日致齋一日。共會祭之祭日並班幣儀並准神祇官其幣皆用正稅。とありて尤重き神事なり。ゆ

た祭日の事。二月四日と。班幣日と雖とも。府縣鄕村社
よは。班幣なければ。四時祭式よ。二月四日。であるに基
きて。その古例よ倣ふべし○此ハ伊勢兩太神宮。大歲
神。御歲神。若歲神。產土大神等を齋き奉りて。穀物の豐
熟を祈り奉る。祭祀なるを以て。祈年祭とは云なり

祭式　二月四日

祭祀ニ關ル祠官以下及ヒ神部（須知可見）共ニ前日ヨリ齋戒ス（須知可見）
當日早旦神殿ヲ裝飾シ（須知可見）神饌物ヲ調度ス（須知可見）
午前第八時祠官以下各祭場ニ參入ス（作法可見）
次　祠官殿ニ昇リ（作法可見）再拜拍手御扉ヲ開キ（各平伏）一拜畢テ側
ニ候ス（作法可見）此間奏樂（須知可見）
次　祠掌以下神饌ヲ傳供ス（作法可見）此間奏樂
次　祠官再拜祝詞ヲ奏ス（作法。各平可見。伏）再拜（兩殿）拍手（兩殿）一拜（作法可見）
次　同官玉串ヲ獻ヲ拜禮畢テ本處ニ候ス（作法可見）
次　官員郡區戶長參拜ノ節ハ此所ニテ拜禮アルベシ（以下皆同）
次　祠掌及ヒ神部拜禮（作法可見）
次　氏子總代拜禮
次　祠掌以下神饌ヲ傳撤ス（作法可見）此間奏樂
次　祠官一拜御扉ヲ閉ツ（各平伏）再拜拍手畢テ下殿（作法可見）本座
ニ復ス（作法可見）此間奏樂
次　各一拜退出（作法可見）

但無祠掌社ハ。祠官自ラ祠掌役モ兼ネ。勤ムベシ。又細注ハ。以下之ヲ除ク。其ニ下皆之ニ倣ヘ

神饌

府縣社八臺
郷村社七臺

洗米　酒二瓶　海魚　川魚

海藻二品　野菜二品　菓　鹽

祝詞

掛巻毋畏支。伊勢兩宮大神。大年神。御年神。若年神。某大神。次ニ兼勤本勤

社ノ神名忌シ白ス

止。御名者白ス。稱辭竟奉者。今年二月爾。御年初ト止。

爲ス。今日乃祭爾大前乎持齋麻波利。慎美敬比奉留大御食大

御酒。海物。野物。種々乃物乎。置座爾置足波志ス仕奉事乎平久

安久聞食ス。敷坐留百姓我。手肱爾水沫搔垂。向股爾泥搔寄ス。

取作ル米。奥津御年乎始ス。水田陸田乃。品物波。草乃片葉爾至

麻ス。不成傷布事無久。彌榮爾令榮賜比。彌足比爾令足賜者。今

年乃秋乃初穂乎波。八百稻千稻爾引居ス。新嘗乃祭爾稱辭竟

奉ル。忌米賜止。皇神乃御前爾祈白須事乎聞食世止。恐美恐美

毋白須。

辭別ス白久。如此仕奉事乃漏落事乎波。神直日大直日爾

見直志聞直志給閉止。恐美恐美毋白須。

新嘗祭

神社祭式ニ。本月十日。太政官廳ヨ於テ。幣帛ヲ班ツ。其

式總て祈年祭と同し。又。神拜畧記と。抑新嘗とは。祈年の御祭と因て。其年の五穀。豐熟あて。天下平穩なるを以て。其奉饗乃爲。皇上御親ら。新穀の初穗を以て。天照大御神を始奉り。天神地祇を奉祭し給ひ。又伊勢神宮へは。奉幣の勅使を立給ふ。故と新嘗と云ふ。則祈年祭と相對する御祭典ありとあり。日本紀神代卷と。見天照大神當新嘗時則云々。とある是を。神代葦牙と。新嘗は。其年の新穀を。始てきこしめす時。神ともいはひて奉り給ことと。天津神代も。今も同く。毎年十一月と行給。新嘗の御神事なり。大御代始の年は。ことさらと

おもくあくし給ふを。大嘗とは云ふなり。又。本文に見天照大神方織神衣居齋服殿と。ある此神衣は。新嘗の御幣の御料あるべしと云へり。はた。古事記傳略に。大嘗は。書紀と新嘗とあり。續紀と大新嘗ともあり。何れも意富爾閑と。訓べし。中略新稻を以て饗するを云名なり。中略神とも奉り。人とも饗。自も食ふとさかりとあり。また。日本紀一書と。勅曰以吾高天原所御齋庭之穗亦當御於吾兒云々とある文を。古語拾遺と引て。其註と。齋庭稻穗。以稻種授之。大嘗會有齋庭之儀也とあり。是そ新嘗の權輿なること。詳あり。はた。仁德天皇卷。四

十年春三月の條ゝ。是歲當新嘗之月。以宴會日賜酒於內外命婦等云々。用明天皇。二年乃條ゝ。夏四月。乙巳朔。丙子。御新嘗於盤余河上云々。皇極天皇。元年十一月の條ゝ。丁卯。天皇。御新嘗。是日。皇太子。大臣。各自新嘗。ゝ見ヘ。又。天武天皇。五年九月ゝ條ゝ。丙戌。神祇官奏曰。爲新嘗卜國郡也。齋忌。齋忌此云忌則尾張國山田郡。次。次此云須岐也丹波國訶沙郡。並食卜。中略冬十月。乙未朔。置酒宴群臣。丁酉。祭幣帛於相新嘗諸神祇とあり。さて。職員令の義解ゝ。大嘗謂嘗新穀以祭神祇。朝諸神之相嘗祭。夕者。供新穀於至尊也。また。神祇令ゝ。下卯。大嘗。義解ゝ。謂若有三卯者。以中卯爲祭日。不更待下卯也と見ゆ。四時祭式ゝ。新嘗祭。奠幣案上神。三百四座。並大社一百九十八所。中略前一百六座。座別幣物准社法。但除庸布。右中卯日。於此官齋院官人行事。諸司不供奉但頒幣及造供神物新度。中臣祝詞新。准月次祭。右新嘗祭時。先新造炊殿依件鎭祭。宮主行事。其舊殿者壞却給宮主とあり。さてまた。祭日の事。古來ゝ十一月の中卯日。或ゝ下卯日を用ひ給しかとも。御改曆後ゝ。十一月二十三日を以て。御祭日とゝ。定給ひける。そかし○此ゝ祈年祭の神等を齋き奉り新穀豐熟の神恩を。かたじけなみ。忌火を以て。新穀を炊きいえひ

て。神ゐ奉り。人ゐも喰そしめ。また吾自も喰ふ祭祀なるを以て。新嘗祭とは云なり

祭式　十一月廿三日

祭式ハ総テ祈年祭ニ准ス（兼勤社ノ祭儀モ。又同シ）

神饌（府縣社九盞　郷村社八盞）

和稲 荒稲	酒二瓶	餅一重	海魚
川魚	海藻二品	野菜二品	菓（郷村社ニハ之ヲ除ク）
鹽 水			
水			

祝詞

掛巻毋畏き伊勢兩宮大神。大年神。御年神。若年神。某大神（次ニ兼勤本勤社ノ神名悉ク白ス）

止。御名者白ス。稱辭竟奉者。今年皇神等乃。依志賜閉留。奥津御年乎本刈斷。由志理伊豆志理。持參來ス。八百稲千稲爾引居ス。天都御食乃長御食乃遠御食止。汁爾毋實爾毋。仕奉利。鰭乃廣物鰭乃狹物。奥津藻菜邊津藻菜。甘菜辛菜爾至麻ス爾置足波志ス。今日乃生日乃足日爾。新嘗乃御祭仕奉狀乎。平久安久所聞食世止。朝日乃豐榮登爾。稱辭竟奉久止白須。如此仕奉爾依ス。天皇我朝廷乎堅盤爾常盤爾齋比奉利。仕奉百官人等。又大神等乃敷坐留氏子乎始ス。天下乃公民爾至麻ス。洩留事無久夜守日守爾守幸倍立榮志米賜倍止。白須事乎。天之斑駒乃耳、彌高々爾振立ス、聞食世止。畏美畏美毋白須

例祭

神社祭式は年中祭祀の中。大祭一度を以て。例祭と稱す。中略本社古例の神事あらば。神饌を撤する前行ふべし。又。神幸の式あらば。神饌を撤して後。渡御あるべし。

まる。合議條件は。各社の祭事ぬ。惣て古式を失ひざる樣。註意をへき事。さて又。神拜畧記は。產土神乃神恩を蒙り奉ること。既往現今將來は亘りて。能言語の及ふ所はあらざるは。今更言を待す。而ふて例祭ぬ其神恩は。報賽するの祭禮なれば云々。神教要旨に。產土神又分司其地神德一體不可以崇也。畧解は。產土神ぬ。鄉里村落は鎭祭して。土人世々冥福を禱る神なり。中略最敬祭祟奉して。冥護を祈るへきなりとありしが。實にさることなり。產土神ぬ。誰れはまを。其生ある土地の鎭守を申すことはて。其生れし土地を宇夫須那と云ふ事ぬ。推古天皇紀は。蘇我馬子が天皇は奏せる語は。葛城縣者。元臣之本居也。故因其縣爲姓名とあり。さて。四時祭式は。生嶋巫奉齋神祭云々中畧右御巫以下諸祭並於神祇官齋院祭之と見を。はた。祝詞式は八生嶋御巫辭竟奉。皇神等前白久生國足國。御名者白。辭竟奉者。皇神能敷坐。嶋能八十嶋者。谷蟆能狹度極。鹽

沫能留限。狹國者廣久。峻國者平久。云々と有ね。則國魂神を祭給ことゝして。吾大八洲ゐね。各自の國魂神あり。又その土地ゐね產土神。あらぎと云ことゝなし。而ふてその原始たるや。神ゐまる人ゐまゐ。其土地ゐ事故あるを以て。產土神とハ齋き奉りしなりしが。其神靈の異なる故ゐ。容貌。言語。志氣。自ら同一ならぎ。是みな。其土地の產土神の神靈の。寓せる所なるが故也。そね其產土神等の持分て司給ふことなるば。ふかあるべき事ゐかん。又產土神ゐ對して。其土地ゐ。生る、諸人を氏子と云ハ。內子と云ふことにて。其神の御內子と云ふ義かり。そハ顯世ゐ。生れ來る元ね專ら此神の御薩ゐて生れ來りて。生存乃時ね。夜とかく晝とかく守り給ひ。死後ゐと毎年十月ゐ到れば。其靈魂を。幽府の朝廷たる出雲の大社ゐ率ひ行き給て。其本府の政令ゐ任せ。善良の人魂ね。拔擢騰用して。各位を定め天地間ゐ。造化の幽役を命ぜらゐ。凶惡の人魂ね。斷罰せらゐて。畜類となり或ね妖魅となるもあり。されば。生存の病苦災難等と言を待たぎ。穀物野菜草木ゐ至まて。此神ね受持給ふ。造化の功德ゐ依て。生々化育することゐそありける。如此懇懃なる恩賴を蒙りかから。他し

神を祈るとも叶へ給ふ道理なし。俗に提灯借し恩の知るとも。月日の照し給ふ恩を。知らぬと云に同じ。ゆめ〳〵心得違ひあるまじきことにこそ。故に何事の祭典は固より。病疾災難を除む事を。第一吾産土神に祈り。次に自余の神を祈るぞよかるべし。又産土神と氏神ぬ。同一に思ひまかふべからぬ。その氏神ぞ云ぬ。吾先祖を云ことにして。中臣氏の氏神は天兒屋根命。忌部氏の氏神は天太玉命の類にぞありける。又祭日の事ぬ。その神にても人にても。産土神と祝ひ齋き奉りし日。又ぬ勸請あるる日歟。或ぬその人の命終りある日歟。

何をもも。事故ある日を以て。祭日と定ある者ぞかし

○此ハ其敷地の氏子に限り。年分蒙りたる恩賴を憙しみ辱なみて。その神靈を慰め奉る祭祀なるを以て。例祭とは云なり

祭式

祭祀ニ關ル齋主以下及ヒ後取共ニ前日ヨリ齋戒ス

當日早旦神殿ヲ裝飾シ神饌物ヲ調度シ祓ノ幄ヲ設ク（須知可見）

先時剋齋主以下各祓ノ幄ニ着ク

次　祓主祓座ニ進ミ再拜（各平伏）祓詞ヲ讀再拜（一段）拍手（一段）一拜

（作法可見）柳ノ枝ヲ取テ祓フ畢テ（使部ナシテ柳ヲ海川ニ流却セシムベシ）本座ニ復ス

次齋主以下各祭場ニ參入ス此間ニ後取ナシテ祓ノ幣ヲ撤セシム

次齋主殿ニ昇リ再拜拍手御扉ヲ開キ各平伏一拜畢テ側ニ候ス」此間奏樂

次陪膳以下神饌ヲ傳供ス」此間奏樂

次副齋主二拜奉幣二拜畢テ本座ニ復ス幣使之ニ從フ奉幣式可レ見

次齋主再拜祝詞ヲ奏ス各平伏八拜八開手一拜作法須知可レ見

次同官玉串ヲ献テ拜禮畢テ本處ニ候ス、

次副齋主以下拜禮

次氏子總代拜禮

次神樂。大和錄。競馬。相撲。其余古例ノ神事アラバ。此所ニテ行フベシ。

次陪膳以下神饌ヲ傳撤ス」此間奏樂

次神輿行幸ノ式アラバ。此所ニテ渡御アルベシ

次齋主一拜御扉ヲ閉ツ各平伏再拜拍手畢テ下殿本座ニ復ス」此間奏樂

次各一拜退出直會舍ニ著ク

次直會作法可レ見

神饌府縣社九座鄕村社八座

酒二瓶

海魚二品

川魚和稻荒稻

海藻二品

餅一重

野菜三品

菓鄕村社ニハ之ヲ除ク

鹽

水

祓詞

掛巻母恐支。神伊佐奈伎大神。筑紫乃日向乃橘乃小門乃阿波岐原爾。御禊祓給比志時爾。生坐世留。祓戸乃大神等。各母各母持分給布。御功績乃任爾。今日乃御祭爾。仕奉神官等我。過犯世留罪穢有耳牟乎。祓給比清米給倍止申須事乎聞食世止。恐美恐美母白須。

祝詞

八十日日者在止母。今日乃。生日乃足日爾神官姓名我。往水乃清支水際爾身潔志豆。由麻波利清麻波利。持畏美畏美母。皇大神乃前爾。稱辭竟奉久止白須。此郷乃青垣山乃下津磐根爾。宮柱太敷立。高天原爾千木高知豆。天之御蔭日之御蔭止。隱鎮坐豆。此里乎總守賜布。掛巻母阿夜爾畏支。某大神止。御名者白豆。朝日乃豐榮登爾。臣乃禮自利止。稱辭竟奉者。常乃例乃任爾。今日乃御祭仕奉我故爾。「進留神寶者。瑞八尺瓊乃御吹支乃五百都御統乃玉爾。明和幣曜和幣乎附豆。御鏡。御横刀爾。備奉利」。三種神器ナキ社ニハ進留ヨリ以下四十一字ヲ脱スベシ氏子乃獻禮留初穗乃品乎取並。御食者。和稻荒稻爾。鏡乃餅。御酒者。甕上高知甕腹滿並豆。大野原爾生物者。甘菜辛菜。青海原爾住物者。鰭乃廣物鰭乃。狹物。奥津藻菜邊津藻菜爾至麻豆爾。種種物乎如横山積置豆。獻留宇豆乃幣帛乎。安幣帛乃足幣帛止。平久安久聞食止。稱辭竟奉久止

白須。如此仕奉事乎。皇神乃御心爾。平久安久聞食旦。今毋以往毋。天津日嗣所知食須。天皇命乃「白玉乃大御白髮坐志。赤玉乃御阿加良比坐志。青玉乃美豆乃江玉乃行合爾。明都御神止。大八嶋國所知食須。」

三種神器ナキ社ニハ白玉ヨリ以下所知食須マテノ四十四字ヲ脫ベシ

大御世者。千世万世爾極無久。寶祚乃御隆者。天壞止共爾窮利無久。堅磐爾常磐爾齋比奉利。伊加志御世乃足志御世爾。幸閉賜比。仕奉百官人等乎毋。平久安久守賜比幸閉賜比旦。天皇我大朝廷爾。茂夜具波延乃如久。立榮令仕奉賜比。是乃國乃縣主乎

府ハ府主

始米。司司乃人人乎。日爾異爾榮志米賜比。及氏子乃益人等乎始旦。天下乃公民爾至麻旦。彌益益爾賑比睦比榮志米賜比夜守日守爾。守賜比惠麻比賜布事乎。尊美憚志美。八開手拍上旦。臣乃禮自利止謝言乎白奉留事乃由乎。天之斑駒乃耳振立旦聞食世止。鹿自物膝折伏世鵜自物頸根突拔旦。恐美恐美毋白須。辭別旦白久。如此仕奉事乃漏落牟事乎波。神直日大直日爾。見直志聞直志坐世止。畏美畏美毋白須。

四方拜

掃部式ゴ。元日平旦。設奉レ拜天地四方御座前庭鋪長莚立御屏風三所敷半帖。とあり。はた。四方拜ハ正月元日寅刻ゴ行はる掃部寮御座を清涼殿の東庭ゴ敷れ御屏風四帖を立御座は三所ゴ設く北面云々と西宮記江

次第等の書ゟ見ゐたり國史畧。宇多天皇の條ゟ。寛平元年正月朔。帝拜ニ天地四方屬星山陵一。同註ゟ。後世所謂四方拜。未レ詳ニ原始一。案ニ公事根源一。蓋昉ニ于此一。故ニ此後不ニ復書一。と見ゆ。神拜略記にゑ。其年の首ゟして。百事万端此日より改む。最尊重をべき日なり。故ゟ朝廷ゟてゐ。宮中の神殿ゟ於て。皇上御親ら。皇大神宮を始め奉り天神地祇を。拜禮まゐ〳〵て。天下蒼生ゐたために。年中の安穩を祈り。天下泰平を祝し給ふ。是を四方拜と云とゐり

○此ゐ本殿ゟて。舊來元日の式を行ひ。次ゟ拜殿ゟ降り座して。天津社國津社と齋き奉れる。日本國中大小の神社を。遥拜せむ爲ゟ。四方を拜する祭祀なるを以て。四方拜とは云なり

祭式

一月一日

當日早旦神殿ヲ裝飾シ神饌物ヲ調度ス

午前第五時祠官以下祭場ニ參入ス

次　祠官殿ニ昇リ再拜拍手御扉ヲ開キ（各平伏）一拜

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳供ス

次　祠官再拜祝詞ヲ奏ス（各平伏）再拜（一段）拍手（一段）一拜

次　同官玉串ヲ献テ拜禮畢ヲ側ニ候ス

次　祠掌拜禮

次　氏子總代拜禮

次　祠官殿ヲ下リ拜殿ノ中央ニ座シ北ニ向テ天ニ再拜西北ニ向ヲ地ニ再拜次ニ四方ニ再拜ス（天ハ天津神。地ハ國津神。四方ハ日本國中大小ノ神社ナリ）

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳撤ス

次　祠官一拜御扉ヲ開ッ（各平伏）再拜拍手畢テ下殿本座ニ復ス

次　各一拜退出

神饌（府縣社六臺　鄉村社五臺）

洗米（或ハ板）　**酒**（二瓶）　**餅**（一重）　**海魚**

藻菜（海藻一品野菜一品鄉村社ニハ合一臺トス之ヲ除ク）

鹽水

祝詞

懸幕毋恐支。某大神乃御前爾神官姓名恐美恐美毋白久。新支年乃新支月乃。今日乃一日乃生日乃足日爾。持齋波利仕奉牟（本勘）止。奥山爾生立留。千歳經本常磐乃松乎。本打切持參來旦。五百枝奈須。小竹止共爾齋庭爾結立。注連引延齋比清米旦。奉留物者。大御食。大御酒。鏡乃餅爾。品々乃物乎取並旦。今日乃朝日乃豐榮登爾。稱辭竟奉留狀乎。大御心爾。平久安久聞食旦。

皇御孫命乃大御世乎。手長乃御世止。堅岩爾常岩爾。齋比依志奉利。茂御世乃足御世爾福閉奉利。天皇我朝延爾仕奉。官人

等乎。彌高爾。彌廣爾。伊加志八桑枝乃如久令立榮賜比。及此鄉乃益人等乎始旦。天下乃公民爾至席旦。平久安久。夜守日守爾守幸閉賜閉止。白須事乎聞食世止。畏美畏美毋白須。

元始祭

神社祭式は。此日宮中に於て。賢所并天神地祇。御歷代の皇靈を。御親祭在せらる。是天津日嗣の本始を祝ふて。歳の首は祀り給ふ義なるを以て。元始祭と稱す。因て地方は於ても。此大典を遵奉ふ。祭祀を執行すべしと見い。まる神拜畧記は。伊勢神宮を始め奉り。府縣の官社以下。鄉村の產土神社は至るまで。そを〳〵祭祀を行ふ。ゆめて。國家の大典は遵奉せしめ給ふ。然は天下一般の人民。本日は勿論家業を休み。各家の職神祖神を祭り。其家業乃繁榮長久を祈るべし。とあり○此は產土神。並は天神地祇八百万神等を齋き奉り。天津日嗣の大本を祝して。寶祚盛隆の。無窮を祈り奉る祭祀おるを以て。元始祭とは云ふり

祭式　一月三日

當日早旦神殿ヲ裝飾シ神饌物ヲ調度ス

午前第八時祠官以下祭場ニ參入ス

次　祠官殿ニ昇リ再拜拍手御扉ヲ開キ各平伏一拜

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳供ス

次　祠官再拜祝詞ヲ奏ス（各平伏）再拜（一段）拍手（一段）一拜

次　同官玉串ヲ獻ヲ拜禮畢テ側ニ候ス

次　祠掌拜禮

次　氏子總代拜禮

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳撤ス

次　祠官一拜御扉ヲ開ッ（各平伏）再拜拍手畢テ下殿本座ニ復ス

次　各一拜退出

神饌（府縣社七臺　郷村社六臺）

洗米　酒（二瓶）　餅（一重）　海魚

海藻（二品）　野菜（二品　郷村社ニハ海藻野菜一品宛合一臺トス）　鹽　水

（此祭典ハ祈年祭ヲ同ク。兼勤社ナモ祭ヘシ）

祝詞

掛巻毋。天津神地津神八百万神等。及此郷里爾宮柱太敷立。高天原爾氷木高知豆鎮坐須。吾大神止。辭竟奉留。畏支某大神（兼勤社ノ神名悉シ白ス）止。御名者白豆。稱辭竟奉者。年乃始乃今日乃祭爾。大前乎持齋波利持清麻波利豆。獻留御食者。洗米爾。鏡乃餅。御酒者。甕上高知滿並豆。海乃物。野乃物。品々乃物爾至麻豆爾。机代爾置足波志豆奉留。此宇豆乃幣乎。稱辭竟奉久止白須。

高天原爾神留坐須。皇親神魯企神魯美之命以ヲ。皇御孫之命乎。天津高御座爾坐ヲ。天津璽乃鏡劔乎捧持賜ヲ。言壽宣比志久。皇我宇豆乃御子。皇御孫之命。此乃天津高御座爾坐ヲ。天津日嗣乎万千秋乃長秋爾。大八洲豐葦原之瑞穗國乎。安國止平久所知食止。言寄志奉賜比。天降志賜比志食國天下止。天津日嗣所知食皇御孫之命乃大御世者。千代万世爾極無久。寶祚御隆者。天壤止共爾窮利無久長久久入守給比幸閉賜比ヲ。万世爾大座坐志米賜比。百官人等我預ヲ。仕奉禮留。太政者。彌高爾彌廣爾。清支赤支眞心乎以ヲ。伊蘇志美仕奉耳志米賜比又大神等乃氏子乎始ヲ。天下四方國乃公民爾至麻ヲ。平久安久守福閉惠美賜閉止。白須事乎甘美爾聞食世止。恐美恐美毋白須。

後月輪東山陵遙拜

神社祭式ヲ。本日ハ孝明天皇の御崩日なるを以て。宮中ヨリ於て。御親祭在せらるゝ。又勅使を山陵に差遣し幣帛を奉らる。因て該神社ヲ於て。遙拜せべし。國史略ヲ。慶應三年正月。葬泉涌寺後山。稱後月輪東山陵。謚孝明天皇。とゝ。御諱を統仁命と申し奉り。御壽を三十六歳ヲぞ。おはゝしける。泉涌寺ハ。今の京都。山城國紀伊郡ヲあり。さて天下の万民ヲ遙拜せしめ給ふ御趣

旨ハ。日本紀神代の卷ニ。豐葦原ノ千五百秋之瑞穗國。是レ吾子孫可王之地也。宜爾皇孫就而治焉と見えたり。されは天下ハ万民は皇孫命ニ授給ひしこと明なり。則天下の万民ハ是より皇孫命の万民と。定ゐりたることとなしあれば。何もの天皇ニまし〳〵ても。遙拜するハ。固。よりたかあるべきことなるかも。尚更此天皇は。今上皇睦仁命の御親祖なるが故也○此ハその土地の產土神社。境内ニ於て。遙拜する祭祀なり

遙拜式

一月三十日

當日早且山城國ノ方ニ向ヒテ遙拜所ヲ須知可見裝飾シ神饌物ヲ調度シ左右ニ床机ヲ設ケ是ヲ各員ノ席トス

午前第八時祠官以下着床

次　祠掌神饌ヲ献供ス

次　祠官正面ニ進ミ再拜拜詞ヲ奏ス各平伏再拜一段拍手一段一拜畢ヲ復床ス

次　祠掌拜禮

次　氏子總代拜禮

次　祠掌、神饌ヲ撤ス

次　各一拜退席

次　神籠ヲ燒却ス

神饌二盛

洗米　酒二瓶

此祭典ハ。前日氣勝村毎ニ。玉串ヲ頒布シ。本日該村產土神境內ニ於テ。山城國ノ方ニ向ヒ。遙拜致サシムベシ

拜詞

足引乃。山城國紀伊郡奈留後月輪乃東乃。畏支統仁命乃山陵乃。今日乃御祭乃大前乎。此沙庭爾神籬立旦。大御食。太御酒乎。机代爾引居旦。神官里人等。諸參來旦。朝日乃豐榮登爾。遙爾拜奉留狀乎。平久安久聞食世止。恐美恐美毋白須。

紀元節

神社祭式ニ。本日ハ。神武天皇の御即位日ニ當れるを以て。紀元節と稱す。此日宮中ニ於て御親祭在せらる。因て該神社ニ於て遙拜すべし。また神拜署記ニ。神武天皇御即位日なるを以て。紀元節と號し。普く天下の祝日とせ。中略辛酉年正月朔日。天皇の御位ニ即せ給ひて。大和國橿原ニ都を定め給ふ。是を人皇の始とす。誠ニ人皇の御大祖と仰き奉るべし。故ニ今般改暦に。此天皇御即位より紀元を起し。何千何百何十何年を紀ゐ給ひ。ふ。全く是ニ因てなり。如斯重大き御祝日なるを以て。中略賢祚万々歳を祝し奉るべしと云へり。さて明治六年一月四日の。御布告ニ。今般改暦ニつき。人日。

上巳。端午。七夕。重陽之。五節を廢し。神武天皇即位日。天長節之。兩日を以て。自今祝日と被定候事と出あり。故に本日は舊來の節句と看做す。人民互に和親を要とあて。祝賀ゆべきことなり。○此ハ產土神。又其境內の遙拜所に參拜して。神武天皇の御即位し給ひしを。祝ふ日なるを以て。紀元節とも云ふなり

遙拜式

二月十一日

祭式神饌等ハ總テ孝明天皇山陵遙拜式ニ倣ヒ大和國ノ方ニ向ヒ遙拜式執行スベシ（前日鈴蘭村毎ニ玉串ヲ頒布スル儀モ。亦同シ）

拜詞

虛空見都。大和國高市郡奈留。畝傍乃橿原宮爾。天津日嗣所知食須。畏支神日本磐余彥命乃。大靈乃大前乎。此沙庭爾神籬立旦。大御食。大御酒乎。机代爾。引居旦。神官里人等。諸參來旦。今日乃朝日乃豐榮登爾。遙爾拜奉留狀乎。平久安久聞食世止。恐美恐美毋白須。

神殿祭

本祭は。宮中神殿に於て。天神地祇を祭り。春分二月の中と。秋分八月の中と。每年兩季に。御親祭あらせられて。八百万の神等を慰め給ふ祭祀なり。因て各地產土神社の境內に於て。人民一般にも。遙拜せしめ給ふこ

ぜに。こそありける

遙拜式（春分二月ノ中秋季之ニ准ス）

祭式神饌等ハ總テ孝明天皇山陵遙拜式ニ倣ヒ東京ノ方ニ向ヒ遙拜式執行スベシ（前日兼勤村毎ニ。玉串ヲ頒布スル儀モ。亦同ジ）

拜詞

武邪志野乃。東京乃內裏爾。天津社國津社乃神等乎齋支奉利。春乃（九月ハ秋乃ト白スベシ）御祭止志旦。行波世賜布。今日乃御祭乃大前乎。此沙庭爾神籬立旦。大御食。大御酒乎。捧持旦。神官里人等。諸〻參來旦。畏美畏美母遙爾拜奉留狀乎。平久安久聞食世止白須。

皇靈祭

本祭ハ。宮中の拜所ニ於テ。神武天皇以來。歷世の皇靈を祭り。春分二月の中と。秋分八月の中と。毎年兩季ニ。御親祭あらせらるゝて。其皇靈を慰め給ふ祭なり。因て各地產土神社の境內ニ於て。人民一般ニも遙拜せしめ給ふことゝ。こそありける

遙拜式（春分二月ノ中秋季之ニ准ス）

祭式神饌等ハ總テ孝明天皇山陵遙拜式ニ倣ヒ東京ノ方ニ向ヒ遙拜式執行スベシ（前日兼勤村毎ニ。玉串ヲ頒布スル儀モ。亦同ジ）

拜詞

東京乃内裏爾。皇祖御歴代乃。天皇乃大靈乎齋支奉旦。春乃。九月

御祭止志旦。行波世賜布。今日乃大靈祭乃大前乎。此沙（秋乃ト白スベシ）

庭爾。神籬立旦。大御食。大御酒乎。捧持旦。神官里人等諸參來

旦恐美恐美毋。遙爾拜奉留狀乎。平久安久聞食世止白須。

畝傍山東北山陵遙拜

神社祭式ゴ。本日ハ神武天皇の御崩日なるを以て。宮中ゴ於て。御親祭在せられ。又勅使を山陵ゴ差遣し幣帛を奉らる。因て該神社ゴ於て遙拜をべし。日本紀ゴ。七十有六年春三月甲午朔。甲辰。天皇崩于橿原宮。時年一百二十七歲。明年秋九月乙卯朔。丙寅。葬畝傍山東北陵。と見ヒ。まゐ古事記ニ。凡神倭伊波禮毘古天皇御年壹百參拾漆歲。御陵在畝火山之北方白檮尾上也とあれど。御歲ハ何ほゴやらむ。諸陵寮式ゴ。畝傍山東北陵。註ゴ。畝傍橿原宮。御宇神武天皇在。大和國高市郡。兆域。東西一町。南北二町。守戸五烟。と見ゑたり。○此ハ該地の產土神社境內ゴ於て。遙拜する祭祀なり

遙拜式　四月三日

祭式神饌等ハ總テ孝明天皇山陵遙拜式ニ倣ヒ大和國ノ方ニ向ヒ遙拜式執行スベシ（前日兼勤村毎ニ。玉串ヲ頒布スル儀モ。亦同ジ）

拜詞

袁陀耳。大和國高市郡奈留畝傍山乃東北乃。掛巻母恐支。神日本磐余彦命乃山陵乃。今日乃御祭乃大前乎。此沙庭爾。神籬立耳。大御食。大御酒乎。机物爾置足成耳。神官里人等諸參來耳。遙爾拜奉留狀乎。平久安久聞食世止。恐美恐美母白須。

風神祭

神祇令云。風神祭。義解云。謂亦廣瀨龍田二祭也。欲令沴風不吹稼穡滋登。故有此祭。按大忌祭。義解云。謂廣瀨龍田二祭也。欲令山谷水變成甘水。浸潤苗稼得其全稔。故有此祭と見ゆ。又四時祭式云。大忌祭一座（廣瀨社七月准此）云々。次云風神祭二座（龍田社七月准此）云々。右二社差王臣五位已上各一人。神祇官六位以下官人各一人。充使（卜部各一人。神部各二人相。隨國司次官以上。一人專當行事。即令諸郡別交易供進贄二荷云々。太政官式云。凡大忌風神二社者。四月七月四日祭之。式部省四月七月朔日。點定社別王臣五位已上各一人。申送辨官。辨官下知大和國。また式部式云。凡大忌風神二祭使王臣。五位王二人。臣二人。若王五位不足者。聽差王四位。但其名簿四七兩月朔日點定。申送辨官とあり。右。令。式。とゝ云大忌風神二祭云々。とゝあるその大忌ゝ。廣瀨の御膳神。風神と龍田の風神なることと明けし。そゝ祝詞式廣瀨大忌祭の詞云。廣瀨能川合爾。稱辭

竟奉洗。皇神能。御名乎白久。御膳持須流若宇加能賣能命聖。御名乎白耳。此皇神前爾辭竟奉久云々。まる龍田風神祭の詞ゑ。龍田爾稱辭竟奉。皇神乃前爾白久。志賀嶋爾大八嶋國知志。皇御孫命乃中略草乃片葉爾至乃耳。不成一年二年爾不在。歳眞尼久傷故爾。中略不成傷神等波。我御心曾止悟奉體止。宇氣比賜支。是以皇御孫命大夢爾悟奉久。中略我御名者。天乃御柱乃命。國乃御柱乃命止。御名者悟奉耳。中略吾宮者。朝日乃日向處。夕日乃日隱處乃。龍田能立野乃小野爾。吾宮波定奉耳。吾前乎稱辭竟奉者云々と見いたりゑば。その社ゑ大和國平群郡。龍田坐天御柱國御柱神社三座。並名神。大。月次。新嘗また大忌の社ゑ同國廣瀬郡。廣瀬坐和加宇加乃賣命神社。名神。大月次。新嘗を神名式ゑある是なり。此若宇加乃賣命ゑ。保食神豐受神と御同神ゑ。まゐ〳〵て。穀物の元つ御祖ゑて。はた天御柱神は級津彦命。國御柱神ゑ級津姫命ゑまゐ〳〵て。風の元つ御祖の神ゑれば。則此神等を齋き奉りて。惡ゑき風。荒き雨ゑくして。穀物ゑ豐熟せむ事を。祈る神ゑあれば。なり○此ゑ產土神。天御柱神。國御柱神。若宇加乃賣命等を齋ゑ奉りて。風雨の障ゑく。穀物の豐熟せむ事を。祈り奉る祭祀ゑるを以て。風神祭とゑ云ふ

なり

祭式 四月四日

祭式ハ總テ元始祭ニ倣ヒ執行スベシ（兼勤社ヲ祭ル儀モ亦同ジ）

神饌 五臺

洗米　酒 二瓶

塩　海魚

水　野菜 二品

祝詞

大和國。龍田乃立野乃小野爾。鎮座須。畏支天之御柱神國之御柱神廣瀬乃川合爾坐須。若宇加乃賣神等乎。率招。某大神（兼勤社ノ神名悉少白ス）止。御名者白。此皇神等乃大前爾。稱辭竟奉者。今年四月乃。今日乃生日乃足日爾。御祭仕奉我。故爾。大御食。大御酒。海乃物。野乃物。品々乃物乎。机代爾置足波志。稱辭竟奉久止白須。如此仕奉留事乎。皇神等乃御心爾。平久安久聞食志相宇豆乃比賜。敷坐世留郷々乃百姓我。作作禮留五穀乎。始。甘菜。辛菜。草乃片葉爾至麻。惡風。荒水爾。不相賜。不成傷布事無久。彌榮爾令榮賜。彌足比爾令足給。閉止。祈白須事乃由乎聞食。驗久。神隨守給。幸給。閉止。恐美恐美毋宇自物頒根突拔。稱辭竟奉久止白須。

大祓

抑祓乃大原。伊弉諾素戔鳴の二神より起りし。そは上

古神代より。伊奘諾命。黄泉と云ける。穢き國より到給ひし
を悔給ひて。筑紫日向之橘之小戸之阿波岐原より到坐
して。禊祓し給ふより依て。尊き日月の神をはじまし給
ひ。又素戔嗚神は。惡き事轉おかし給ひおるより依て。天之岩
窟の前より於て。千座置戸乃祓を科せられて。根國より神
逐より逐それ給ひしより依て。清き神となりて。出雲國に
て。八俣の蛇を殺し天乃叢雲の劔を得て。其功德を顯
おし給ふ事より。是より此二大神の二義を合せて。身滌大
祓の法式と定め給ひおが。是其權輿おり。古語拾遺。神
武天皇の御世より。天種子命。解除天罪國罪事とありお

が。即是より御歷代の天皇此式を傳へて。六月十二月
晦日を定期とおて行ひ給ひ。まる非常の事ある時ぬ。
臨時より此式を行ひ給ふ事となりおが。そハ仲哀天皇
乃御宇より。取國之大奴佐。而種々求。生剝。逆剝。阿離。溝埋。
屎戸。上通下通婚。馬婚。牛婚。鷄婚。犬婚之罪類。爲國之大
祓而云々と。古事記より見ひふるり。又天武。文武の朝より
行はれおる如く。此ハ皆臨時の祓なり。古は罪咎を犯す
者あらば。此法を以て其罪咎を正おる本然の正心より歸
おむ。是より吾國の風儀にそありける。そて神拜略記より。
抑大祓と申は。天下の人民。現在の罪科を政府の法律

は漏るゝも少からざ。其類は又皆冥府の神罰を免れず。然は罪科の露顯るゝと。あらはれざるとは。拘てら刑罰を蒙る事は。皆等しきなり。中略中古以來。中絶せしを御維新の御代となりて此式を再興し給ひ以て弘く万民乃罪科を祓ひ給ふ。故は是を、大祓と云ふ。本日宮中は於て。皇上御親ら祓の式を行はせ給ひ。又百官をも祓はしめ。府縣の官社以下。鄉村の產土神社は總て此式を行ハしめて。人民漏なく祓はせ給ふ。誠は有難き御事なり。然れば祓は臨めば自ら深く既往の罪科を思ひ。信は悔悟の心を起し。產土神社は參拜して。所謂舊惡を神前は懺悔し。再び罪惡を犯さゞるを誓ひて。祓の式を受べしと云れたが實はさることは。こそありけれ。さて此大祓の式は。令義解に。凡六月。十二月。晦日。大祓謂祓者。解除不祥也者。中臣上御祓麻。東西文部。謂東漢文直。西漢文首也上祓刀。讀祓詞。謂文部漢音所讀者也訖。百官男女。聚集祓所。中臣宣祓詞。卜部爲解除。と見えまた四時祭式は。六月晦日。大祓十二月。中略准之右晦日。卜部各著明衣。其一人執御麻。二人執荒世。二人執和世。二人執壺。宮主。史生。神部等。左右。分頭。前驅。次中臣官人。次御麻。次東西文部。各執横刀次荒世。次和世。並著木綿鬘進候延政門。大舍人叫門。宮內輔入奏。其詞見宮內式退

出。召中臣。稱唯。率文部四國、卜部入。宮主在候宜陽殿南頭。此中中臣率卜部、執荒世者就階下置於席上。掃部寮預敷筵席於階下。縫殿寮設荒世和世、御服於席上次中臣捧御麻。進就版位。勅曰參來。即稱唯進就階下。中臣女。簡中臣氏女、堪事者奏定於殿上轉取供奉。畢授中臣。即執授卜部。一人令向祓所。又更宮內輔入奏。其詞見宮內式退出。召中臣。即稱唯。東文部捧横刀入就版位。勅曰參來。即稱唯就階下。轉授中臣女。取奉御。訖即出。次西文部進退。亦如前儀。宮主被荒世授中臣。中臣取授中臣女。即執量御體摠五度。訖次宮主捧拂。中臣轉執授中臣女。執奉御。訖退授中臣。轉授宮主。宮主取授後取卜部。荒世事畢退。亦中臣引和世。進退如荒世儀。其荒服者。賜卜部。和服者賜宮主。訖皆退出。臨河解除而去。また太政官式。凡六月十二月、晦日於宮城南路大祓。大臣以下。五位以上。就朱雀門。中略百官男女悉會祓之。臨時大祓亦同。とある即是なり○此は祓戸四柱大神等を招き奉りて。萬民の陰微なる罪惡を弘く祓ひ除かむことを。祈り奉る法式なるを以て。大祓とは云ふなり

祓式

六月晦日十二月之准ス

當日平旦社頭ニ祓ノ場ヲ設ク須知可見

午後第二時大麻及ヒ祓物ヲ高案ノ上ニ置キ須知可見神饌物

ヲ調度ス

次　祠官以下各祓ノ場ニ着ク

次　祠官神殿ニ昇リ再拜拍手御扉ヲ開キ（各平伏）一拜

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳供ス

次　祠官再拜祝詞ヲ奏ス（各平伏）再拜（一段）拍手（一段）一拜畢テ殿ヲ下リ再ビ祓ノ場ニ着キ一揖

次　祠掌祓座ニ進ミ再拜天津祝詞ヲ奏ス（各平伏）再拜（一段）拍手（一段）一拜

次　同官群參諸人ノ方ニ向ヒ（神座ヲ背ニナサヾルヤウニ斜ニ座シ）一拜大祓詞ヲ讀ミ（各平伏）畢テ（各同官作法唯稱可レ見）一拜

次　同官大麻行事（作法可レ見）畢テ本座ニ復ス

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳撤ス

次　祠官殿ニ昇リ一拜御扉ヲ閉ツ（各平伏）再拜拍手畢テ殿ヲ下リ拜殿ニ座ス

次　各一拜退出

神饌（五臺）

洗米　酒（二瓶）　海魚

水鹽（祈年祭ト同ク兼勤社ナモ祭ヘシ）　野菜（二品）

神殿祝詞

掛卷毋恐支。某大神（次ニ銀鈴社ノ神名恐シ白ス）等乃大前爾。神官姓名恐美恐美毋白久。此縣乃（府ハ府乃ト白ス）司人。又大神等爾仕奉神官等乎始乃（十二月ハ十二月乃ト白ス）今日乃夕日乃降爾。祓物乎。置座爾置足波志豆。敷坐留郷里乃公民等我。過犯介牟雜々乃罪穢乎。今年六月祓清牟留事乎。祓戸乃神等爾。神議議給比豆。諸乃狂事罪穢乎。祓給比清給倍止。大御食。大御酒。品々物乎捧持豆。祈白須事乃由乎。天之斑駒乃耳彌高々爾振立豆。聞食世止。畏美畏美毋白須。

天津祝詞

高天原爾神留坐須。神魯岐神魯美之命以豆。皇御祖。神伊邪那岐命。筑紫日向乃橘乃小戸乃阿波岐原爾。御禊祓比給布時爾。生坐留祓戸乃大神等。諸乃枉事罪穢乎。祓賜閉清米賜閉止申須事乃由乎。天津神國津神。八百万乃神等共爾。天之斑馬乃耳振立豆。聞食世止。恐美恐美毋白須。

大祓詞

集侍留。人等諸。聞食左倍止白須。此縣乃（府ハ府乃ト白ヘシ）司人。及神官等乎始豆。郷里乃公民我。過犯介牟雜々乃罪穢乎。今年六月乃（十二月ハ十二月乃ト白ベシ）今日乃夕日乃降乃大祓爾。祓賜比清賜布事乎諸。聞食止白須。

高天原爾神留坐須。皇親神漏岐神漏美乃命以豆。八百万神等

乎。神集集賜比。神議議賜氐。我皇御孫之命波。豐葦原乃水穗之國乎。安國止平久知所食止事依志奉伎。如此依志奉志國中爾。荒振神等乎波。神問志爾問志賜。神掃掃賜比氐。語問志磐根樹立。草之垣葉乎毛語止氐。天之磐座放。天之八重雲乎。伊頭乃千別爾千別氐。天降依志奉支。如此久依左志奉志四方之國中登。大倭日高見之國乎。安國止定奉氐。下津磐根爾宮柱太敷立。高天原爾千木高知氐。皇御孫之命乃美頭乃御舍仕奉氐。天之御蔭日之御蔭止隱坐氐。安國止平氣久所知食武。國中爾成出武。天之益人等我。過犯家牟雜々罪事波。天津罪止。畔放。溝埋。樋放。頻蒔。串刺。生剝。逆剝。屎戸。許許太久乃罪乎。天津罪止法別氣氐。國津罪止八。生膚斷。死膚斷。白人胡久美。己母犯罪。己子犯罪。母與子犯罪。子與母犯罪。畜犯罪。昆虫乃災。高津神乃災。高津鳥災。畜仆志。蟲物爲罪。許許太久乃罪出氐。如此出波。天津宮事以氐。大中臣。天津金木乎本打切末打斷氐。千座置座爾置足波志氐。天津菅曾乎。本刈斷末刈切氐。八針爾取辟氐。天津祝詞乃太祝詞事氐宣禮。如此乃良波。天津神波。天磐門乎押披氐。天之八重雲乎。伊頭乃千別爾千別氐。所聞食武。國津神波。高山之末。短山之末爾上坐氐。高山之伊穗理。短山之伊穗理乎撥別氐。所聞食武。如此所聞食氐波。皇御孫之命乃朝廷乎始氐。天下四方國爾波。罪止云布罪波不在止。科戸之風乃。天之八重雲乎

吹放事之如久。朝之御霧夕之御霧乎。朝風夕風乃吹掃事之如久。大津邊爾居大船乎。舳解放艫解放氐。大海原爾押放事之如久。彼方之繁木本乎。燒鋸乃敏鋸以氐打掃事之如久。遺罪波不在止。祓給比清給事乎。高山之末短山之末與里。佐久那太理爾。落多支都速川能瀨坐須。瀨織津比咩止云神。大海原爾持出奈武。如此持出往波。荒鹽之鹽乃八百道乃。八鹽道之。鹽乃八百會爾座須。速開都比咩止云神。持可可呑氐牟。如此久可可呑氐波。氣吹戸坐須。氣吹戸主止云神。根國底之國爾氣吹放氐牟。如此久氣吹放氐波。根國底之國爾坐。速佐須良比咩登云神。持佐須良比失氐牟。如此失氐波。此縣乃府ハ府乃ト白ヘシ司人又神官等乎始氐。敷坐留鄉里家宅乃。男女爾至麻氐。自今日始氐。罪止云布罪波不在止。高天原爾耳振立。聞物止馬牽立氐。今年六月乃十二月ハ十二月ト白スヘシ晦日乃夕日之降乃大祓爾。祓戸之大神等乃。祓給比清給布事乎聞食左倍止。白須。

道饗祭

神祇令の義解に。道饗祭。謂卜部等。於京城四隅道上而祭。言欲令鬼魅自外來者不敢入京師。故預迎於道而饗遏也とあり。また祝詞式の。道饗祭の詞に。大八衢爾湯津磐村之如久塞坐。皇神等之前爾申久。八衢比古。八衢比賣。久那斗止。御名者申氐。辭竟奉久波。根國底國與和

鑑備跡備來物爾。相率相口會事無氏。下行者下乎守理。上往者上乎守理。夜之守日之守爾。守奉齋奉禮止云々。四時祭式ニ。道饗祭（於京城四隅祭）云々と見ヱ。ー。が。祝詞考ニ。京城四隅とは。京の外郭の外の四隅なり。まゐ國ニ疫病などおこるときえ。國の堺ニて祭り。京ニ疫疾なと有時ハ。宮城の四隅ニ祭る。是をは後ニ四角四堺乃祭といふ。令ニえ。常例をのみ擧たまへば京城四隅の祭のみ有也。寶龜元年六月十一日の紀ニ。祭疫神於京師四隅幾内十堺。また同九年三月乃紀ニも。幾内諸堺祭疫神と見ヒ。臨時祭式ニハ。幾内堺十所疫神祭あり。又天平七年八月の紀ニ。大宰府疫死者多云々。長門以還。諸國司守若介專齋成道饗祭祀とあり。諸國ニても行ふ事と知るべしと云へり。されば臨時祭ニ疫神祭のあることを思ば。たとへ鄉里ニ疫疾おくとも。此祭を定期ニ行ひ。若し臨時ニ疫疾おこる時え。彼疫神祭を行ふべき事ニぞありける。又此祭ハ。大祓式畢りまゐる後ニ行ふ事。祝詞考ニ云れまゐばあり○此ハ塞三神等を。氏子四堺の路上ニ迎へて饗を獻り祈願して。鬼魅の外より來るを防き遏めふむる祭祀なるを以て。道饗祭とえ云ふなり

祭式

六月晦日午後四時
十二月モ亦同ヲ

當日午前第十時氏子四堺ノ路上ニ齋場ヲ設ク須知可レ見

午前第四時神饌物ヲ調度ス

次　祠官以下各齋場ニ着ク

次　祠官再拜降神祝詞ヲ奏ス各平伏　再拜拍手一拜

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳供ス

次　祠官再拜祝詞ヲ奏ス各平伏　再拜一段拍手一段一拜畢テ本座ニ復ス

次　祠掌拜禮

次　氏子惣代拜禮

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳撤ス

次　祠官再拜昇神祝詞ヲ奏ス各平伏　再拜拍手一拜

次　各一拜退場　次々ノ齋場ニ至リテ行フ式皆同ヲ

神饌五臺

洗米　酒二瓶　海魚　野菜二品

水壇

降神詞

掛母由々敷。塞大神止辭竟奉留。八衢比古神。八衢比賣神。久那斗神止。御名者白旦。此齋場爾奉招。各母各母天翔里來集比坐旦。今日乃神事爾。幸倍令在給止。畏美畏美母白須。

祝詞

此八衢爾湯津磐村乃如久塞坐須。畏支皇神等乃前爾白久。八衢比古。八衢比賣久那斗止。御名者白氏。辭竟奉者。根國底國與里飯備疎備來物爾。相率相口會事無氏。下行者下乎守理。上往者上乎守理。夜之守日之守爾。守給比幸給倍止。大御食。大御酒。海物。野物。品々物乎。机代爾置足波志豆。進留此宇豆乃御饌物乎平久安久聞食氏。此八衢爾湯津岩村乃如久塞坐氏。此郷者諸乃病。及雜々乃枉事無久。惟神守幸給止。神官天津祝詞乃太祝詞事乎以旦。辭竟奉止白須。

昇神詞

此齋場爾令坐奉留。掛卷毋畏支。塞三柱大神等乎。奉送各毋各毋本津御座爾復利鎮坐世止。恐美恐美毋白須。

鎮火祭

神祇令の義解に。鎮火祭。謂在宮城四方外角卜部等。鑽火而祭。爲防火災。故曰鎮火。と見に。また四時祭式に。鎮火祭（於宮城四隅祭）云々（中略）匏四柄。藁四圍。とあり。祝詞考に此は六月十二月晦日の夜に入て。行ふ祭なりと云へり○此は火結神。埴安神。水波女神等を。氏子四堺の路上に迎へて。饗を献り火を鎮り。祈願ぎて。火の災を防き鎮めしむる祭祀なるを以て。鎮火祭とも云なり

祭式

六月晦日午後六時
十二月ニモ亦同ジ

齋場ハ道饗祭ニ設シ齋場ヲ用ユ

午後第六時神饌物ヲ調度ス

次　祠官以下各齋場ニ着ク

次　祠官再拜降神祝詞ヲ奏ス　各平伏　再拜拍手一拜

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳供ス　傳供畢ツハ使部ヲシテ。潔ヲ神饌案ノ前ニ。置シム

次　祠掌火ヲ鑽ヲ藁ヲ燃ス

次　祠官再拜祝詞ヲ奏ス　各平伏　再拜一段拍手一段一拜畢テ本座ニ復ス

次　祠掌拜禮

次　氏子總代拜禮

次　祠掌火ヲ消ス　使部之ニ從フ

次　祠官掌共ニ神饌ヲ傳撤ス

次　祠官再拜昇神祝詞ヲ奏ス　各平伏　再拜拍手一拜

次　各一拜退場　使部ヲシテ齋場ヲ撤除セシム　○次々ノ齋場ニ至リテ行フ式皆同ジ

神饌

五盞

洗米　酒　二瓶

塩　水

海魚　野菜　二品

水　鮑　川菜

埴　此四品ノ物ヲ神饌ノ次ニ献ルベシ　○鮑川菜ハ。須知可見

降神詞

掛母恐支。火產靈神。水波能賣神。埴山比賣神止。御名者白氐。此齋場爾奉招。各母各母荒魂者鎮座坐氐。和魂。幸魂。此神牀爾天翔里神集坐氐。今日乃神事爾幸倍令坐給倍止。畏美畏美母白須。

祝詞

高天原爾神留坐。皇親神魯義神魯美能命持氐。皇御孫命波。豐葦原乃水穗國乎。安國止平久所知食止。天下所寄奉志時爾。事寄志奉志天都詞太詞事乎以氐申久。神伊佐奈伎伊佐奈美命。妹背二柱嫁繼給氐。國乃八十國嶋乃八十嶋乎生給比氐。麻奈弟子爾火結神乎生給氐。美保止被燒氐石隱坐氐。夜七夜晝七日。吾乎奈見給比曾。吾奈妖乃命止申給比支。此七日爾波不足氐。隱坐事奇止氐見所行須時。火乎生給氐。御保止乎所燒坐支。如是時爾。吾奈妖乃命能。吾乎見給布奈止申乎。吾乎見阿波多志給比津止申給氐。吾名妖能命波。上津國乎所知食倍志。吾波下津國乎所知牟止白氐。石隱給氐。與美津枚坂爾至坐氐所思食久。吾名妹命能所知食上津國爾。心惡子乎生置氐來奴止宣氐。返坐氐。更生子。水神。匏。川菜。埴山姫。四種物乎生給氐。此能心惡子乃心荒比曾波。水神匏。埴山姫川菜乎持氐。鎮奉禮止事教悟給支。依此氐稱辭竟奉者。此鄉爾御心一速比給波志止爲氐。進物者大御食。大御酒。海

物。野物。品々物爾至麻豆爾。机代爾置足波志豆。天津祝詞乃太祝詞事乎以豆。稱辭竟奉久止白須。

昇神詞

此齋場爾令坐奉留。掛巻毋畏支。火結神。水波能賣神。埴山比賣神等乎奉送。各毋各毋本津御座爾復和鎮座豆。今日乃祈事爾幸令在給倍止。畏美畏美毋白須。

神嘗祭遙拜

神祇令の義解に。神嘗祭。謂神衣祭日便即祭之。と見に。神社祭式に。本日宮中に於て御遙拜。且賢所御親祭在せられ。又勅使を神宮に差遣し幣帛を奉らる。因て該神社に於ても遙拜すべし。歟設等總て上の遙拜式に同じ。また神拜略記に。皇大神宮神嘗祭として。年中第一の御大祭なるを以て。朝廷宮中の御拜所に於て。皇上御親祭遊され。遙に神宮を拜ませ給ひ。伊勢へハ奉幣の勅使を立給ふ。茲に因て各地方の官社以下。鄉村の產土神社に至まて。各拜所を設け。天下億兆の人民をして。皇大神宮を遙拜せしめ給ふなりと云へれたり。さてその祭式の事に。四時祭式。九月祭の條に。伊勢太神宮。神嘗祭。幣帛云々。右當月十一日平旦。天皇臨大極後殿。舉幣。其使諸王五位已上。及神祇官中臣忌部官各

一人給當色。執幣五人。使、從者三人。各給深衣布一端。但齋王初參入之時。設御座於大極殿とあり。また大神宮式に。九月神嘗祭。太神宮御衣三疋（稱宜預五月奴封戶調絲深齋所儀備）○中略度會宮御衣二疋（稱宜奴封戶絲齋儀如上）○中略右月十六日祭度會宮。十七日祭大神宮。稱宜大內人各著明衣。分頭左右宮司立中。女使、忌部捧幣。女馬。女使、中臣。女使、王。入就內院服位。使、中臣申祝詞。訖、亦神宮司宣祝詞。餘、儀同月次祭。とあり

○此は該地の產土神社の境內に於て。伊勢兩神宮の神嘗祭を遙拜する祭祀なり。

遙拜式 十月十七日

祭式神饌等は總て孝明天皇山陵遙拜式に倣ひ伊勢國の方に向ひ遙拜式執行スベシ（前日兼勤村每に玉串ヲ頒布スル儀モ。亦同ジ）

拜詞

神風。伊勢乃川上爾鎭座須。掛卷毋畏支。天照大御神。外宮乃山田原爾鎭座須。豐宇氣大神乃大前爾。神嘗祭止志豆行志米給布。今日乃御祭乃大前乎。此沙庭爾神籬立豆。大御食。大御酒乎。設備豆。神官里人等諸參來豆。朝日乃豐榮登爾。遙爾拜美奉留狀乎平久安久聞食止。畏美畏美毋白須。

天長節

神社祭式に。本日天皇御誕辰なるを以て。各地に於て

万壽無疆を奉祝すべし。まゝ神拜畧記に。皇上御降誕の日なるを以て天長節と號し。年中最大の祝日とす。故に朝廷に於ても。百官拜賀に參内し。則ち宮中の神殿に於て御祭典を行えせられ。官省は云に及ばず。地方の諸官に至まで。普く饗宴を賜ふ。最も重大の御儀式なり。茲に因て伊勢神宮に申すに及ぶ。官社以下諸社に於て。當日祭祀を行えしめ人民悉く拜賀せしめ給ふ。中略是を以て。御降誕の日は年中最大の祝日とすべし見る。また明治六年一月四日の御布告に。今般改暦に付。人日。上巳。端午。七夕。重陽の五節を廢し。神武天皇即位日。天長節之兩日を以て。自今祝日と被定候事と出たり。因て本日は舊來の節句と看做し。人民互に和親を要として祝賀をへきことゝ。こそありける。○此の皇上御降誕の日なるより。產土神社に參拜して。御壽命長久を祝ふ日なるを以て。天長節とも云ふなり

祭式十一月三日

祭式ハ總テ元始祭ニ同シ（但シ鎮魂社ヲ祭ル儀ハ之ヲ除ク）

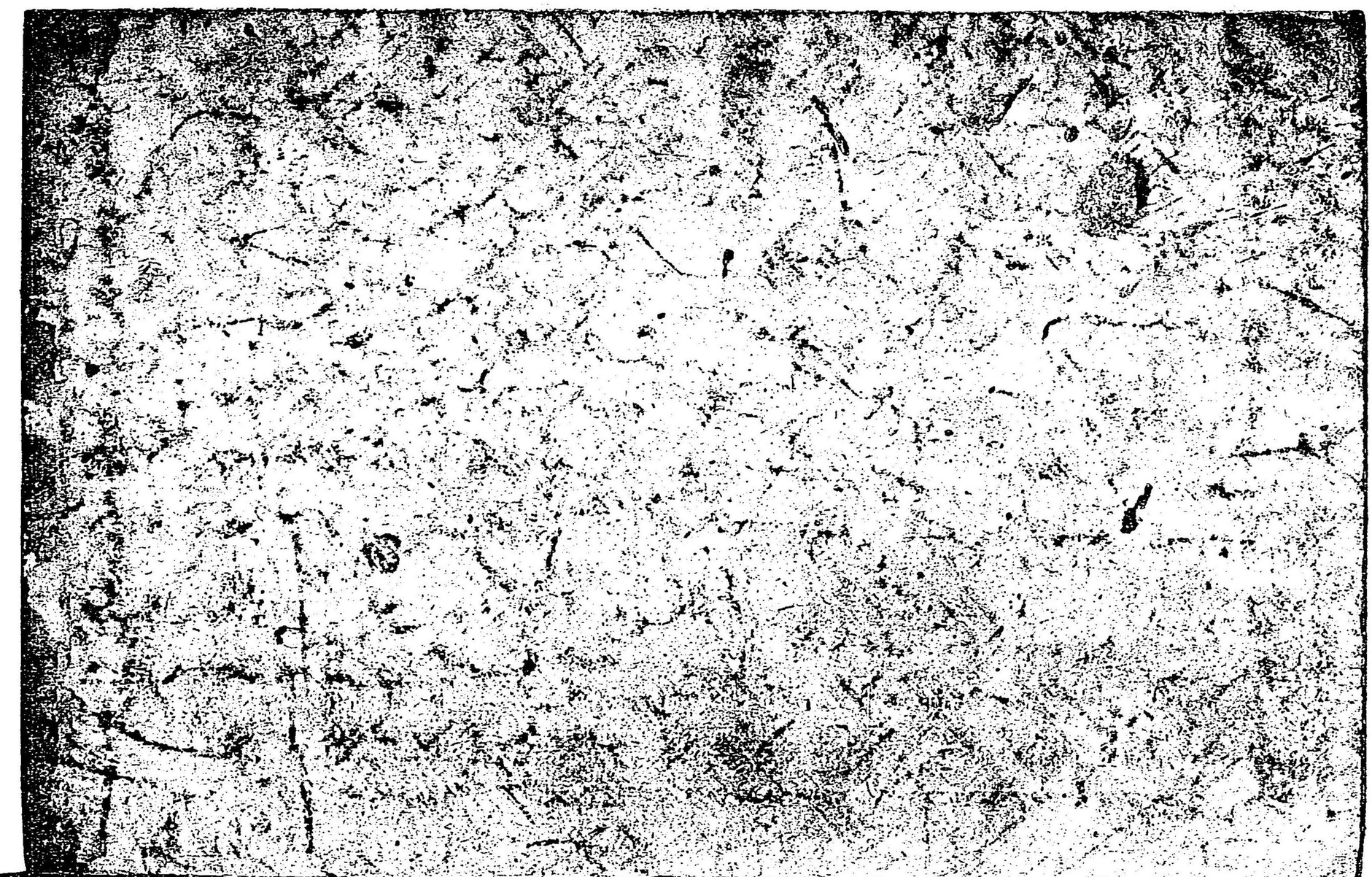
神饌（三盞）

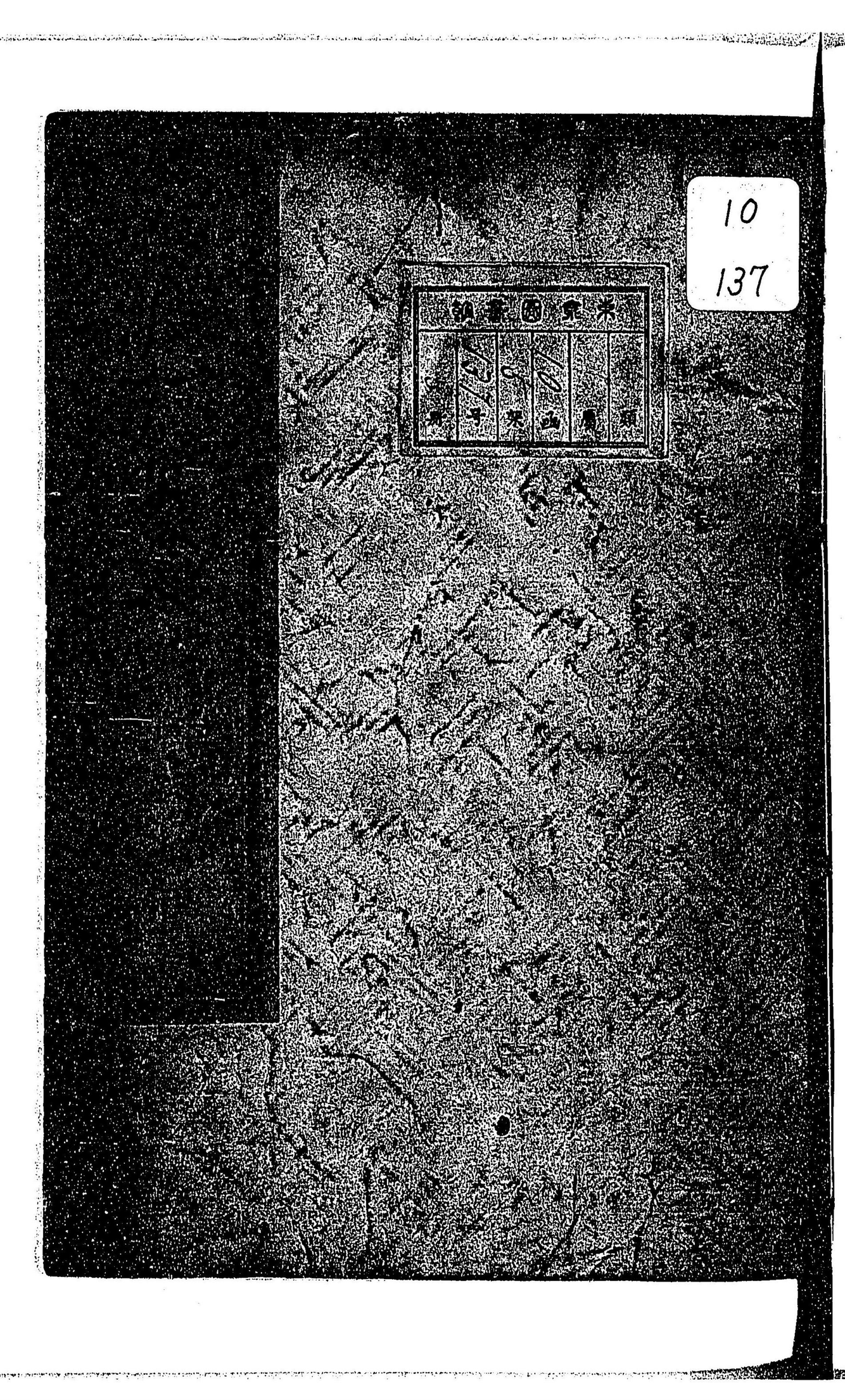
洗米　酒（二瓶）　海魚

祝詞

掛畏加志古岐。某神社乃大前爾。神官姓名恐美恐美毋。今日乃生日乃足日爾辭竟奉者。今乃顯世爾。明御神止大八嶋國所知食須。睦仁天皇我阿禮坐志日那留乎以。天下爾波今日乎。吉日止祝比定給我故爾。今日乃朝日乃豐榮登爾。大前乎持齋波利持清麻波利。大御食。大御酒。鱗乃物乎。進氐稱辭竟奉久止白須。如此仕奉事乎。皇神乃大御心爾平久安久聞食。天皇我御壽乎手長乃御壽止。湯津岩村乃如久。常岩爾堅磐爾伊加志乃御代止。守幸倍給比。及阿禮坐世留。天皇我宇豆乃皇子等乎毛。千秋五百秋乃永人止令在給比。惠給比。幸給比。百官人等。及大神乃氐子乎始。天下乃公民爾至万。長久平久守惠美幸給閉止。膝折伏。畏美畏美毋稱辭竟奉久止申。

府縣鄉村社祭典式卷之上畢





014580-001-7

10-137

府県郷村社祭典式

北垣　弼（虎廼舎）／著

1冊（上44丁）

M20

ABB-0995